

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 土方久功主要業績及び関連文献

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立民族学博物館 公開日: 2018-12-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清水, 久夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009302">http://hdl.handle.net/10502/00009302</a>

第Ⅱ部  
関連資料・附論



# 土方久功主要業績及び関連文献

清水 久夫 編

## 1. 土方久功・自著文献

### 1.1 全集・選集

〈邦文〉

- 1990 『土方久功著作集 第1巻』「パラオの社会と生活」三一書房（解説・青柳まちこ「パラオの社会と生活について」）。
- 1991 『土方久功著作集 第2巻』「パラオの神と信仰」三一書房（解説・青柳まちこ「パラオの神と信仰について」）。
- 1993 『土方久功著作集 第3巻』「パラオの神話と伝説」三一書房（解説・大林太良「パラオの神話伝説について」）。
- 1992 『土方久功著作集 第4巻』「サテワヌの神と社会」三一書房（解説・牛島巖「土方久功とサタワヌ島」）。
- 1992 『土方久功著作集 第5巻』「サテワヌの民話」三一書房（解説・鳥羽修郎「サテワヌの民話」）。
- 1991 『土方久功著作集 第6巻』「青蜥蜴の夢／文化の果にて」三一書房（解説・谷川健一「全人としての土方久功」）。
- 1991 『土方久功著作集 第7巻』「流木—孤島に生きて」三一書房（解説・須藤健一「民族誌家土方久功と『流木』」）。
- 1993 『土方久功著作集 第8巻』「サテワヌ島日記／ノート」三一書房（解説・宇佐美英治「土方久功の彫刻」）。

〈欧文〉

- 1993 Endo Hisashi (ed.), *Collective Works of HIJIKATA HISAKATSU: Society and Life in Palau*, Sasakawa Peace Foundation.
- 1995 Endo Hisashi (ed.), *Collective Works of HIJIKATA HISAKATSU: Gods and Religion of Palau*, Sasakawa Peace Foundation.
- 1996 Endo Hisashi (ed.), *Collective Works of HIJIKATA HISAKATSU: Myths and Legends of Palau*, Sasakawa Peace Foundation.
- 1997 Sudo Ken'ichi (ed.), *Collective Works of HIJIKATA HISAKATSU: Driftwood: The Life in Satawal, Micronesia*, Sasakawa Peace Foundation.

### 1.2 単行書

〈民族学〉

- 1940 『過去に於けるパラオ人の宗教と信仰』南洋群島文化協会。
- 1940 『ヤップ島離島サテワヌ島の神と神事』南洋群島文化協会。
- 1942 『パラオ島民の部落組織』南洋群島文化協会。
- 1942 『パラオの神話伝説』大和書房（1985年、解説・大林太良「パラオの神話伝説について」、谷川健一「全人としての土方久功」、年譜〈丸山尚一編〉を付して、三一書房より復刊）。
- 1943 『流木』小山書店（1974年、『流木＝ミクロネシアの孤島にて』と題して、未来社より復刊）。
- 1953 『サテワヌ島民話』三省堂（1975年、『覆刻・サテワヌ島民話—ミクロネシアの孤島にて—』と題し、鳥羽修郎の解説を付して、アルドオより復刊）。

- 1984 『ミクロネシア = サテワヌ島民族誌』 未来社 (校訂・解説 須藤 健一)。  
 〈詩集・随筆集〉  
 1953 [1991] 『文化の果にて』 龍星閣 (『著作集』 第6巻に収録)。  
 1955 『非詩集ボロ』 大塔書店。  
 1956 [1991] 『青蜥蜴の夢 (お砂糖のように甘い南島の……)』 大塔書店 (『著作集』 第6巻に収録)。  
 1965 『旅・庭・昔』 自家出版。  
 1966 『鶴と共に (1955-1956)』 自家出版。  
 1978 『土方久功遺稿詩集』 草原社。  
 1982 『土方久功詩集 青蜥蜴の夢』 草原社 (『非詩集ボロ』, 『青蜥蜴の夢』, 『旅・庭・昔』, 『鶴と共に』 を収録。ただし, 『旅・庭・昔』, 『鶴と共に』 の一部は収録せず)。  
 〈絵本〉  
 1963 大塚勇三・再話, 土方久功・画 『おおきなかぬー』 福音館書店。  
 1963 ハロルド・クランダー & ウルフ・レスロー作, 渡邊茂男・訳, 土方久功・画 『山の上の火』 岩波書店。  
 1965 『ゆかいなさんぽ』 福音館書店。  
 1970 『ぶたぶたくんのおかいもの』 福音館書店。  
 1975 『おによりつよいおんまーい』 福音館書店。

### 1.3 定期刊行物

#### 〈雑誌〉

- 1923 「修学旅行に関する雑稿」『東京美術学校交友会月報』 (第22巻第3号)。  
 1927 「伊藤熹朔の舞台美術展」『アトリエ』 (7月号)。  
 1940 「南洋の鳥景」『野鳥』 (第7巻2号)。  
 1940 「群島代用食は々々」『南洋群島誌』 (第6巻6号)。  
 1940 「禿山」『南洋群島誌』 (第6巻7号)。  
 1940 「南洋の女」『オール女性』 (第7巻10号。のち, 『青蜥蜴の夢』 〈草原社〉 に収載)。  
 1940 「南洋の伝説・小ウヘリヤッシングズ」『大阪バック』 (第35巻12号)。  
 1941 「バリー島の土人の木彫」『野鳥』 (第85号)。  
 1941 「扉 (挿絵)」, 「パラオの踊り」 (『南洋群島』 (第7巻6号)。  
 1941 「パラオ島民の自然観」 (『南洋群島』 (第7巻7号)。  
 1941 「扉 (挿絵)」, 「パラオ島民の遊戯」 (『南洋群島』 (第7巻8号)。  
 1941 「パラオ島民の結婚・離婚」『南洋群島』 (第7巻9号)。  
 1942 「パラオ島民の暦」『南洋群島』 (第8巻1号)。  
 1942 「パラオ島貨」 (『青とかげの夢』 より) 『南洋群島』 (第8巻2号)。  
 1954 「サテワヌ島雑記—信仰と踊りの珊瑚礁島—」『海洋文化』 (1954年1月号)。  
 1955 「動かぬ表情・面について」『美術手帖』 (第97号)。  
 1955 「芸術とデーモン」『みづゑ』 (第601号)。  
 1955 「南洋のトイレ」『毎日グラフ』 (10月19日号)。  
 1958 「三河大工『杉浦佐助』の彫刻」『民芸手帖』 (9月号)。  
 1958 「知友交歓」『のろまと気長』『美術手帖』 (第148号)。  
 1959 「加工された人間の顔」『アトリエ』 (第384号)。  
 1959 「南方土民彫刻に生き抜く」『トーテム』 (第25号)。  
 1960 「チチリカ」『野鳥』 (第25巻2号)。

- 1960 「プリミティブ・アート」『三彩』（第129号）。
- 1960 「パラオの石神」『西東』（第5号）。
- 1961 「鳥取り」『野鳥』（第26巻1号）。
- 1961 「手ぐすねの贅沢さ」『別冊みづゑ 特集・アフリカの彫刻』（第29号）。
- 1961 「原始芸術のみなもと」(1)(2)(3)『小原流挿花』（10～12月号）。
- 1963 「鳥たちにふね」『太陽』（第1巻1号）。
- 1963 「かますとやどかり」『太陽』（第1巻2号）。
- 1963 「浜に題す」『経済界』（8月号）。
- 1964 「鶴」『野鳥』（第228号）。
- 1965 「鶴三題」『野鳥』（第229号）。
- 1965 「南洋の花」『現代挿花未生流』（第11号）。
- 1966 「島」『アルプ』（第102号）。
- 1966 「エラツタカオの猫」『日本美術』（第38号）。
- 1967 「南の島で悪口が踊る」『ことばの宇宙』（第2巻8号）。
- 1968 「今の物は本気でやれない」『日経ジャーナル』（4月号）。
- 1968 「追いつめられたところで」『美術手帖』（7月号）。
- 1982 「パラオの小話」『椰子の実』（第5号）。
- 1970 「南洋島民の裸体周辺」『日本美術』（第63号）。
- 1970 「わが心燃ゆ」(『野鳥』（第283号）。
- 1973 「ヘレン島」『野鳥』（第7巻5号）。
- 1973 「葡萄のマーク他」『悲劇喜劇』（6月号）。
- 1974 「僕のミクロネシア」『どるめん』（第2号）。
- 1976 「パラオ・サテワヌむかしばなし」『文春デラックス』（8月号）。
- 1979 「詩四篇」, 「幼年」, 「ヤニュー物語」, 「修学旅行に関する雑稿」, 「金沢の旅」, 「敦ちゃんとの旅(抄)」, 「ロタ日記(抄)」, 「サテワヌ島における結婚・離婚・姦通」『同時代』（第34号）。
- 「パラオ島民の伝説口碑と『教へ』」『南洋教育』（第7巻3号）。

#### 〈新聞〉

- 1954 「パラオ・ホヤホヤ記」『共助義会新聞』（1月1日）。
- 1956 「お金のいらぬ国へ……」『東京新聞』（9月3日）。
- 1957 「踊り疲れりゃお正月—南洋群島よいところ—」『新夕刊』（1月3日）。
- 1959 「美術・芸談 南洋の土民彫刻から」『東京新聞』（8月11日・夕刊）。
- 1959 「世界は広く」『毎日新聞』（9月22日）。
- 1974 「南海の孤島はいま…」『日本経済新聞』（9月7日）。

#### 1.4 その他

- 1940 「アカラップ 島釣り説話」『群島の島民と其の文化』。
- 1949 「トン」『中島敦全集〈第3巻〉』筑摩書房刊（月報付録, 「中島敦全集通信」第3号。『中島敦研究』筑摩書房〈1978〉に再収載）。
- 1960 「パラオでのトンと私」『中島敦全集〈第1巻〉』文治堂書店（月報「ツシタラ4」〈1960〉, 『中島敦研究』筑摩書房〈1978〉に再収載）。
- 1968 「青蜥蜴の夢」, 谷川健一編『青春の記録8—わが青春のとき』三一書房, 所収（1991年,

未発表原稿を加え、『著作集』第6巻に再収録。

- 1959 「パラウのクリツム人面石」『世界考古学大系』平凡社「月報5」。  
1960 「パラオ島の彫り絵」『世界名画全集（第1巻）』平凡社、「月報1」。

## 2. 土方久功・関連文献

### 2.1 単行書

- 1981 岡谷公二「治療の場としての南島—土方久功 中島敦 島尾敏雄—」、『島の精神誌』（思索社）所収。  
1984 矢内原伊作「土方久功の彫刻」、『たちどまって考える』（みすず書房）所収。  
1989 須藤健一「土方久功」、『オセアニア物語』（鹿児島大学南太平洋海域研究センター編、めこん、1989年）所収。  
1990 岡谷公二『南海漂泊 土方久功伝』河出書房新社。  
1990 松居直「土方久功の造形」（『絵本・物語るよろこび』、福武書店、1990年、所収）。  
1991 清水久夫「南洋の夢とロマン再び、土方久功」《私のナイーブ・アート館》第5巻、『日本—ふるさとの詩』（福田繁雄編、学習研究社）所収。  
1994 川村湊「南洋趣味と妣の国」（『南洋・樺太の日本文学』、筑摩書房、所収）。  
1996 川村湊「光と風と青蜥蜴の夢」（『大東亜民俗学』の虚実』、講談社選書メチエ、所収）。  
2001 「ストーリーボード物語」（『地球の歩き方 リゾート319 パラオ』、ダイヤモンド社、所収）。  
2005 坂野徹「土方久功と『裸の土人』たち」（『帝国日本と人類学者』、勁草書房、所収）。  
2007 岡谷公二『南海漂蕩—ミクロネシアに魅せられた土方久功・杉浦佐助・中島敦』富山房インターナショナル。

### 2.2 展覧会図録

- 1979 『南太平洋にロマンをもとめた 土方久功展』小田急百貨店（矢内原伊作「土方久功の彫刻」、谷川健一「全人としての土方久功」、串田孫一「自己確認」、丸木俊、中下邦彦、千田是也、羽根田弥太、村田勝四郎、八幡一郎、びしょっふ英郎、中村伝三郎、安川加寿子、今岡弘、土方敬子、丸山尚一編「土方久功の歩み」）。  
1987 『土方久功展』高岡市立美術館（大島清次「ゴーガンと土方久功」、土方敬子「土方久功展によせて」、丸山尚一編「土方久功の歩み」）。  
1991 『土方久功展 南太平洋の光と夢』世田谷美術館（清水久夫「土方久功—その人と芸術」、須藤健一「民族誌家・土方久功のミクロネシア研究」、作者の詩、年譜・参考文献）。  
2001 『土方久功 日本+南洋の表現』（館藏品目録⑤）高知県立美術館（鍵岡正謹「土方久功の人と仕事」、梶光伸「土方久功の表現」、年譜、参考文献）  
2007 『パラオ—ふたつの人生』世田谷美術館（酒井忠康「あいさつ」／橋本善八「パラオ—ふたつの人生」、「折原澄子さんにきく」／岡谷公二「土方久功とポール・ゴーギャン」／勝又浩「中島敦と南洋」／岩崎清「夢はパラオを」／野田尚稔「美術家・土方久功」／年譜・参考文献）。  
2008 『美術家たちの「南洋群島」』町田市立国際版画美術館（岡谷公二『南洋群島』三代の系譜』／青木茂「美術家たちの『南洋群島』雑感』／滝沢恭司「美術家と『南洋群島』と日本近代

美術と」／豊見山愛「『南』から『南』へ」／奥野克仁「『南洋群島』以前の南洋群島」／解説・年表・文献一覧。

### 2.3 定期刊行物

〈雑誌等〉

- 1954 宇佐見英治「訪問・二人の作家1 土方久功」,『美術手帖』第82号。
- 1955 飯田善国「土方久功論」,『新文明』3月号。
- 1955 岡本太郎「画廊散策」,『塾友』第43号。
- 1962 谷川健一「近代崎人伝-土方久功」(上)(中)(下),『日本読書新聞』1136~1138号(1月1日,1月8日,1月15日)。
- 1968 松原濠「人と作品・土方久功」,『日本美術』第49号。
- 1977 土方久顕「黄泉の客人(歌)」,「兄は命の限界を知っていたのか」,山崎泰雄「よき魂を失う」,一瀬直行「土方さんの聖域」,青木出郎「土方氏を悼む」,今岡弘「土方さんの霊よ安らげく」,『草原』第13号(土方久功追悼特集)。
- 1979 山崎英治「内南洋旅日記から」,大岡信「『土方久功遺稿詩集』を読む」,宇佐見英治「土方久功の彫刻」,安川定男「土方久功と中島敦」,吉田敦彦「サテワヌ神話のオイディプスとウラノス」,牛島巖「土方久功とサタワヌ島」,丸山尚一「土方久功年譜」,土方敬子「思い出」,伊藤海彦「懐かしのエ・メ・ラ!」,土方久顕「回想」,池崇一「土方さんとの出会いと別れ」,新井深「土方さん」,長谷部天翠「土方先生の思い出」,小川啓司「二十年の間に」,人見鉄三朗「エイホー先生」,『同時代』第34号。
- 1979 矢内原伊作「彫刻家土方久功」,『郵政』6月号(後,『歩きながら考える』みすず書房,1982年,収載)。
- 1980 土方敬子「土方久功の歩んだ道(1)・(2)」,『婦人の友』第74巻3・4号。
- 1981 福田徳樹「土方久功関係資料」,『東京芸術大学芸術資料館昭和55年度年報』。
- 1981-1983 土方敬子「土方久功の足跡(一)~(八)」,『草原』第29~36号。
- 1985 中島洋「パラオのストーリーボード」,『アイランズ』(コンチネンタル航空機内誌)Vol.4, No.4。
- 1986 土方敬子「パラオと土方久功」,『南洋群島協会々報』第154号。
- 1987 中村伝三郎「戦後彫刻と私(7),昭和26年度の彫刻界」,『美術の窓』(12月号)。
- 1989 岡谷公二「南海の夢—土方久功の場合」,『夜想』第25号。
- 1989 岡谷公二「南に行った男 土方久功」,『芸術新潮』第475号。
- 1989 浦田義和「中島敦と土方久功—日本近代文学と南」,『沖縄国際大学文学部紀要』(国文学篇)第18巻第2号。
- 1990 清水久夫「作品解説『南島閑日B』」,『ふれあい』第9号。
- 1990 清水久夫「収蔵品紹介・土方久功『浴』」,『美術館だより』(世田谷美術館)第14号。
- 1992 岡谷公二「土方久功—南への視線2」,『フロント』第4巻5号。
- 1992 河内紀「土方久功の『南洋』を読む」(上)(中)(下),『調査情報』第403号~第405号。
- 1993 土方敬子「夫 土方久功のこと」,『岩波講座近代日本と植民地月報1』。
- 1993 清水久夫「土方久功—ミクロネシアで花開いたのびやかな感性(特集・知られざる美術家の肖像)」,『美術手帖』第665号。
- 1993 清水久夫「土方久功の造形思考—その表現主義的性向をめぐって」,『世田谷美術館紀要』第3号。



- 1993 鍵岡正謹「土佐美術史外伝 ① 土方久功」,『高知県立美術館ニュース』第3集。  
 1997 井出孫六「ミクロネシアの光と風—土方久功」,『年金時代』第363~365号(『国を越えた日本人』風涛社,2003年9月,再収載)。  
 2000 中村茂生「土方久功素描—白樺派を後景として」,『平成12年度高知県立美術館研究紀要』。  
 2002 清水久夫「南洋/エクゾティズム/表象:土方久功をめぐる」,『立命館言語文化研究』第14巻1号。  
 2002 岡谷大二「パラオ好日—土方久功と中島敦」,『新潮』第99巻第5号。  
 2002 岡谷大二「南洋群島の彫刻家 杉浦佐助と土方久功」,『穹+』第7号。

〈新聞〉

- 1939 「南洋土民風俗 ①, ②, ③」,『朝日新聞』(7月1・2・3日)。  
 1951 「小道具を作る彫刻家」,『東京新聞』(12月26日)。  
 1953 「原始美-土方久功の作品から」,『新夕刊』(9月25日)。  
 1957 剛頰「美術人論断 土方久功—南洋の土人芸術を歌う叙情派」,『東京新聞』(1月29日)。  
 1979 谷川健一「土方久功のこと」,『東京新聞』(4月10日・夕刊)。  
 1979 「土方久功の特集」,『日本経済新聞』(8月24日)。  
 1987 稗田董平「南海の光・土方久功(上)(中)(下)」,『富山新聞』(4月21・28日,5月7日)。  
 1987 「土方久功展によせて—一人と作品(1)~(6)」,『富山新聞』(5月7~13日)。  
 1987 大島清次「土方久功展—ゴーガンと土方久功」,『富山新聞』(5月12日)。  
 1987 「土方久功展に寄せて—その原始性と現代」,『富山新聞』(5月19日)。  
 1987 谷口義人「土方久功展に寄せて—原始芸術の象徴性」,『富山新聞』(5月24日)。  
 1987 「土方久功の世界-画家・般若一郎に聞く」,『富山新聞』(5月26日)。  
 1987 吉田俊光「土方久功展に寄せて—今も残る日本語」,『富山新聞』(5月31日)。  
 1987 清水久夫「人と芸術—土方久功」,『公明新聞』(6月16日)。  
 1987 清水久夫「土方久功の再発見」,『公明新聞』(5月30日)。

2.4 覧会評・紹介

〈雑誌〉

- 1927 光のぶゆき「土方久功氏の個人展覧会」,『アトリエ』第4巻4号。  
 1927 (李)「土方久功氏彫刻展覧会」,『日仏芸術』(4月号)。  
 1955 宇佐見英治「土方久功個展」,『みづゑ』(第599号)。  
 1955 岡本謙次郎「作品紹介・土方久功『蕃首・男』」,『美術手帖』(第97号)。  
 1957 岡本謙次郎「土方久功個展」,『美術手帖』第122号)。  
 1979 「土方久功遺作展」,『新美術新聞』第191号)。  
 1986 「土方久功展」,『新美術新聞』第468号)。  
 1981 「土方久功展—南太平洋の光と夢」,『新美術新聞』第621号)。  
 1991 「サライ美術館・土方久功展—南太平洋の光と夢」,『サライ』第3巻22号)。  
 1991 丸木俊「土方久功展—南洋に生きた,“今”浦島太郎」,『月刊美術』第195号)。  
 1992 池澤夏樹「幸福な人生—土方久功展」,『よむ』第11号(『読書癖Ⅲ』みすず書房,1999年,再収載)。

〈新聞〉

- 1927 (良夫)「土方氏の個展」,『毎日新聞』(2月27日)。  
 1927 「土方氏の彫刻」,『都新聞』(2月27日)。

- 1927 「個展に見る新人の彫刻 土方久功氏の作」『国民新聞』（2月25日）。
- 1951 「土方久功彫刻展」, 『毎日新聞』（4月12日・夕刊）。
- 1953 高村光太郎「現代化した原始美」, 『朝日新聞』1月9日（『高村光太郎』第6巻, 1957年, 筑摩書房に再掲載）。
- 1953 「日本のゴーガン・土方久功彫刻個展」, 『新夕刊』（1月20日）。
- 1953 「土方久功彫刻個展」, 『毎日新聞』（1月23日・夕刊）。
- 1955 (隆) 「原始的な香気—土方久功彫刻個展」, 『朝日新聞』（4月22日・夕刊）。
- 1955 瀬木慎一「土方久功彫刻個展」, 『読売新聞』（4月27日）。
- 1957 (隆) 「大胆な表現。土方久功」, 『朝日新聞』（1月24日・夕刊）。
- 1964 西常雄「個展評」, 『アカハタ』（3月28日）。
- 1979 「土方久功遺作展」, 『朝日新聞』（4月23日・夕刊）。
- 1987 「土方久功展—あふれる南太平洋の夢とロマン」, 『北国新聞』（5月22日）。
- 1991 「和製ゴーギャン・土方久功に光・世田谷美術館で作品展」, 『朝日新聞』（11月17日）。
- 1991 「土方久功展—バラオの人々へ愛情と共感」, 『東京新聞』（12月5日・夕刊）。
- 1991 岡谷公二「土方久功の回顧展—無垢な精神の透明感」, 『読売新聞』（12月6日・夕刊）。
- 2008 宝玉正彦「美術と文学の交差試す『バラオ—ふたつの人生』展」, 『日本経済新聞』（1月9日）。

## 2.5 書評・紹介

- 1970 「土方久功さく／え『ふたぶたくんのおかいもの』」, 『図書新聞』（10月24日）。
- 1974 (駒) 「流木」, 『徳島新聞』（10月5日）。
- 1974 「流木」, 『毎日新聞』（10月7日）。
- 1974 「流木」, 『読売新聞』（10月7日）。
- 1974 牛島巖「流木」, 『日本読書新聞』第1786号（10月28日）。
- 1975 中村基衛「土方久功著『流木』に寄せて」, 『未来』（第108号）。
- 1976 「サテワヌ島民話」, 『毎日新聞』（1月19日）。
- 1976 「サテワヌ島民話」, 『日本経済新聞』（2月2日）。
- 1977 鳥羽修郎「『サテワヌ島民話』をめぐって」, 『翻訳の世界』（第5号）。
- 1986 松居直「前代未聞の絵本の誕生—土方久功の絵本—」(上)(下), 『絵本のたのしみ』（11・12月号）。
- 1990 「民族学史に残る土方の著作集」, 『日本経済新聞』（8月19日）。
- 1990 (省) 「土方久功・著作集と伝記出版」, 『読売新聞』（10月1日）。
- 1990 鳥羽修郎「書評『土方久功著作集』第1巻『バラオの社会と生活』」, 『週間読書人』（11月12日）。
- 2002 おだまさのり「土方久功—こどもはみんな小さな民俗学者（そしてぎゃくもまた真なり）」, 『美術手帖』（第828号）。

### 註)

この主要参考文献は、清水久夫編「土方久功主要参考文献」（『バラオ—ふたつの人生展』図録、世田谷美術館、2007年）、および清水久夫編「参考文献」（『土方久功展』図録、世田谷美術館、1991年）に掲載したものに、加筆、訂正したものである。その際、「土方久功年譜／著作一覧」（『土方久功著作集』第8巻、1993年）および『高知県立美術館 館藏品目録5 土方久功 日本＋南洋の表現』（高知県立美術館、2001年）掲載の参考文献を参照した。

土方久功自筆文献のうち、専門雑誌に発表した学術論文は一部省いた。なお、ミクロネシアの民

族学研究については、『Senri Ethnological Studies』No.21（1987）の巻末に、著書・論文一覧が付されているので、それを参照されたい。

文献のなかには、詳細な書誌データが不明なものがあるが、抜刷、日記の記載等により、掲載された事はほぼ間違いないので、そのタイトルのみ記した。詳細については、今後の課題としたい。